

70代

男性

血圧や血液検査データを自分で適切と考える数値で管理できるかやスタミナの著しい低下を感じながらも“生きがい”を全うできることを大切にしている。背景要因として、健康はゆらぎながら徐々に衰退していく認識を持っていることがある。

春夏秋冬、歳が激しい。
「あまりよくないになったり」、
「どちうとも言えない」になったり
フラフラしてるん
ちやいますか。



70代

女性

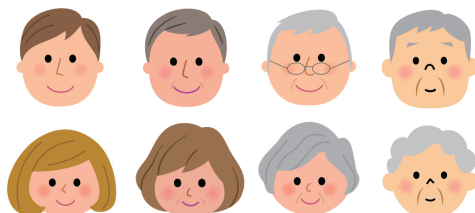
日々の生活の家事・役割が果たせるかが重要。人とのコミュニケーションができなくなることを心配し、夫の存在が相対的に大きくなっている。背景要因として、人間関係の減少と人生の最期を意識していることがある。

主人もいてくれないと、
女のできないことを男の力を
借りないと家のことができない
事もありますしね。
主人も私がいなかったら
困るし。



主観的な健康感を 高めるために

- 1 若い世代、特に女性の家事・育児負担を減らす
- 2 健(検)診の受診率向上と適切な健康管理を支援する
- 3 全世代が、社会の中で役割を持ち続けることを支援する



滋賀県健康医療福祉部 健康寿命推進課健康しが企画室

〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号
TEL.077-528-3657 FAX.077-528-4857

E-Mail : kenkoshiga@pref.shiga.lg.jp

「健康しが」ポータルサイト
<https://www.kenkou-shiga.jp>

この調査は滋賀県からの委託により、
滋賀医科大学公衆衛生看護学講座が実施しました。



健康
みんなで作ろう!
しが

平成30年度

健康しが

県民意識調査事業



インタビュー調査で、
滋賀県民が健康を
どう捉えているかを
分析しました！
新たな事業立案のために
ご活用ください！

Mother Lake 滋賀県

30・40代

男性

健康に無関心な年齢層ではあるが“自分”の身体面を重視し、健診の検査数値データを気にして、“努力”する。
背景要因として、病気の経験や生活に困るような障がいがないことがある。

「とてもよい」とか「全く良くない」という状態がどのくらいのレベルかもわかりません。



50代

男性

老化現象が顕著になるも、受け入れられず、抵抗する年代。“努力”という言葉が多く使い、検査データを管理し、“自分”の評価で健康を判断している。背景要因として、健康診断で指摘を受けたり、老眼や体力の低下が生活や仕事で気になりはじめることがある。

自分のその努力とかで、これからちゃんと良くなるという風には今は思っています。



60代

男性

健康のために努力し、自分の身体機能の変化を受け入れ、自分のやりたいことができるかどうかで健康を評価。
背景要因として、老化や有所見が前提としてあること、定年退職でやりたいことができる時間が増えていることがある。

膝に負荷がかからんように木ももの筋肉は鍛えています。読書や自転車を続けられなくなったら健康じゃないかな。



30・40代

女性

“子ども”が最大要因。家事と子育ての役割を果たせるかが健康の基準になっている。子どものいない時間を設け、心のバランスを保つ必要も認識している。背景要因として、出産に伴う心身の不調や家事や育児は女性が中心に行っていることがある。

私がどないかなっても子育ては待ってられないし家事も待ってられない。



50代

女性

強い自覚症状がないと病院や健診に行かない傾向。家族や友人など周りの人の経験を根拠に“がん”への漠然とした不安を抱えている。背景要因として、子どもが成長し、関心が自分にも向くようになるも、病院や健診には行かないことが習慣化している可能性がある。

実の父ががんでなくなったので、大丈夫かなって思うときがたまにあってしまいます。



60代

女性

同世代の友人と比較し、自由に体を動かすことができ、家事や畑仕事など自分の役割を果たせるかが大切。見た目の美しさが伴っていればベスト。背景要因として、子どもの独立や夫の退職などを機に、自分の人生を振り返るターニングポイントを迎えていることがある。

顔色もいいし、体もよく動かせるし、ハリ・ツヤもある昔なんかは、同じ歳でも健康だと思えますね。

